Report 現場紹介 ― 第43回協力会社改善事例全国発表会・鹿島社長賞（安全部門）受賞事例の紹介 ―

塗装職人が輝きを放つために

株式会社イワサ・アンド・エムズ（東京単協）

株式会社イワサ・アンド・エムズは1950年（昭和25年）に設立、新築塗装工事やリニューアル大規模修繕工事を手掛け、鹿島建設の協力会社としても近年は多くのタワーマンションの施工に携わっています。

同社では10年ほど前から同社社員を中心に塗料メーカー、塗料販売店、塗装職人、塗装施工店など、会社の枠を超えた組織「七夕会（しちゆうかい）」を発足させ、単に仕事内容の改善にとどまらず、広く塗装業界全体の現状の課題や将来展望にいたるまでの様々な諸問題に取り組んできました。今回協力会社改善事例全国発表会においては、その「七夕会」のこの10年の改善活動、および今後へのチャレンジについて発表がなされました。

「七夕会の発足は2013年ですが、きっかけはリーマンショックによる建設労働人口の減少、また建設業界への魅力度の低下など、このままでは業界全体の未来が危ないという強い危機意識からでした。自分たちの後を継がせたいと思える仕事、子供たちが憧れる将来就きたい職業に変えていかなければという思いから会社の枠を超えた組織が発足し、今日まで様々な諸問題に取り組み、改善活動を継続させてきました」（**吉岡慎雄さん**／株式会社イワサ・アンド・エムズ／取締役 塗装本部 本部長）

自分たちの仕事「塗装とは？」を整理して考えていく

様々なことを考えていく中で、まず自分たちの仕事「塗装」とは、という基本的な部分から見直していきました。

「他の仕上に負けない、いい意味での差別化を図るためにどうしようか。それには我々自身が気づいていない素晴らしい魅力があるのではないか。そのために一度業界を整理して考えていくことにしました。七夕会には塗装職人だけでなく、塗料メーカーや販売店など様々な立場の人たちが集まっています。例えば良い職人とはどういう人物か、ということを立場の違う人たちに客観的に意見を出してもらい、それらの最大公約数を追求していく、といった検討を重ねていきました」（**吉岡さん**）

過去の挫折を糧に「七夕会」発足。その様々な取組み

同社では「七夕会」設立前より、業界の将来への不安から、様々な研修会や夜間学校に学んだり、組織改革・生産性向上改革といったプログラムを立ち上げたり、色々な試みをやっていました。しかし多くは主催者主体の会に参加する一方通行な座学中心のものであり、大きな動きにはつながっていかず、挫折の連続でした。流れが変わったのが2012年、若手職長４人が集まって青年部が発足し、それが翌年の「七夕会」発足につながりました。字面から「七夕＝たなばた」と誤解されますが、毎月７日の夕方に集まる、ということからこの名がついています。現在の登録者は80名を超え、毎月そのうちの30～40名くらいは集合して、様々な検討会を開催してきました。

一例として「塗装工事の現実」ということで２回塗り仕上げを３回塗る塗装職人、について考えました。そこで塗装ローラーとの相性や塗布量との関係性、あるいは親方直伝のやり方で、しっかりした基準がなく、何が正しいのかはっきりしない等の問題が浮かび上がりました。こうしたところから、2016年には国土交通省建設工事標準仕様書を読み解く勉強会『ブートキャンプ』が開始されました。これは施工・品質に特化した座学の研修会であり、塗装、内装、左官工事について、わかりやすく現場の事例を交えながら、学習していきました。

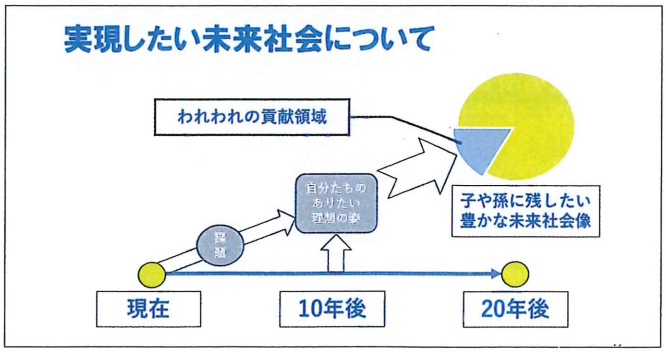
ほかにも汚れが落としやすい塗料、汚れにくい塗料の検討、防毒マスクのフィッティングテスト、化学物質のリスクアセスメント等、多様なテーマを取り上げ、これらの検証結果が、自分たちの品質基準をつくる礎となっていきました。

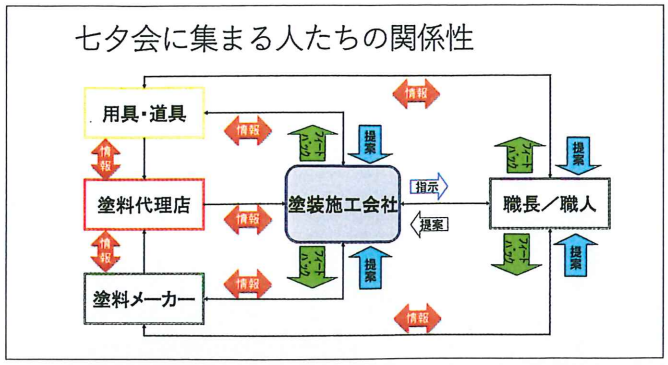
そして何よりもこうした活動を通してメンバー１人１人が幅広い知識を得たことで現場内でも活発な会話が生まれ、またあらゆる判断ができるため、現場所長をはじめ元請のリクエストにも速やかに対応できるようになったことは非常に大きな財産となりました。

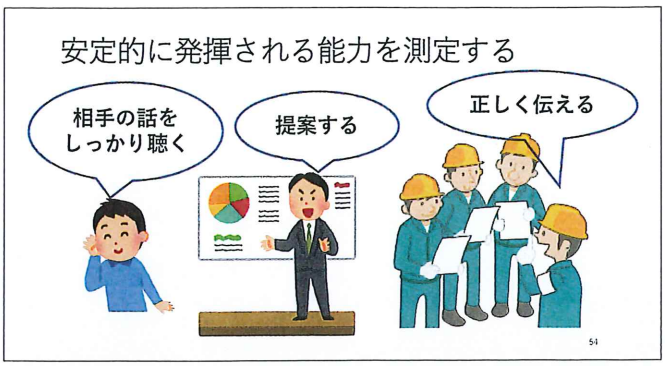
「伝える力」を身につける

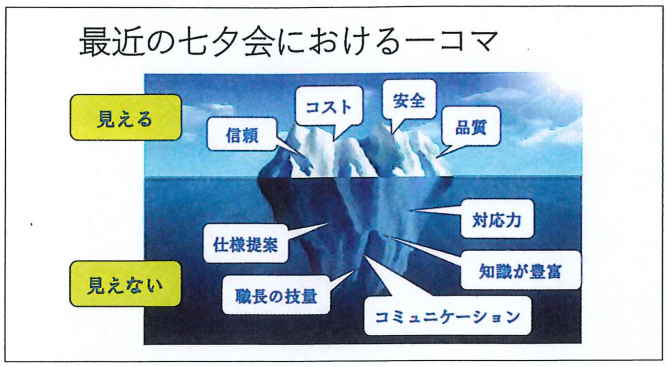
様々な活動を通して、正しい知識、正しい技術を身につけることができました。そうした彼らにここから先に求められるものは、それをしっかり配下や周りの職人さんたちに伝える（説明できる）こと、です。

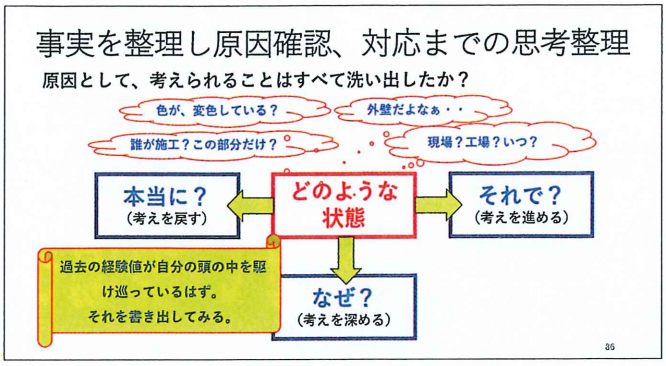
七夕会では、新たなテーマとして「伝えるトレーニング」を掲げ、様々なトレーニングを取り入れました。











例えばアナウンサーを講師に招いての話し方教室、あるいはお客様役と販売員役に分かれ、「お客の話を聞いて、ちゃんと欲しいものを紹介できるか」といったトレーニングを行いました。その中で話すことについての各自の得意不得意もわかり、また外部機関の協力のもとに実施したテストで、各自がもつ能力とは何か、足りない部分は何かを客観的に数値化することでそれがそれぞれの努力目標となり、結果的にスキルアップにつながり、大きな成果を得ることができました。

さらにチームとして力を発揮するためにどうすればいいかというテーマで、チームビルディング、グループミーティングなどを通して、グループで考え、方向性を導いていく重要性を学んでいきました。

七夕会の今後について

七夕会は2022年４月の会合が発足から節目の100回目を数えました。メンバーも現在では現場における他職とのコミュニケーション能力も向上し、現場の先頭に立つような存在にまで成長しました。また彼らの部下も含め、お互いに切磋琢磨する環境もできあがってきています。

七夕会では、従来はある課題に対してどうしていくかという検討を中心にしていましたが、現在はさらに深掘りして、毎回違う物をつくる現場において、そこで下す判断が正しいのかという点にまで議論することにシフトしています。そうすることで難しい施工においても、しっかり考えたうえで、それがうまくいく確率を上げていくことにつながっていきます。そのためには直接現場に関係ない事でも、新しい工法、材料などに常にアンテナを張り、いつでも即座に対応できるよう、「新しい仕上」を常に追求していこう、という話がなされています。

「我々が最終的に目指すものはやはり待遇改善です。そのためには我々の価値にちゃんとお金がつくようなものに変えていきたいと思っています。七夕会からは独立して起業し、競合他社となるまでに成長した人材も生まれています。そうした彼らとも競合というよりは同じ価値を追求する仲間として、業界全体を共に盛り上げていけるよう、七夕会として様々な取り組みを今後も模索していきたいと考えています」（**吉岡さん**）

「例えばJIS規格って普段なかなか学ぶ機会は無いですが、そういう知識もこの会を通して得ることができました。それと塗料１つにしても、普段は番頭さんを通してメーカーに問い合わせとかになりますが、七夕会のメンバーにメーカーさんもいるので、疑問点を直接何でも聞けるだけでなく、さらに深めた話もできるので、仕事にも非常に良い効果を生んでいると思います」（**和田力弥さん**／株式会社イワサ・アンド・エムズ）

「将来、子供たちがこの仕事をやりたいと考え、入職してきたときに、より良い環境で仕事をさせてあげるために、今やっておかなければならないことを考える機会を与えてもらったのがこの七夕会でした。会に参加したことを通して、建築業界が今後どうあるべきなのか、私自身も常に意識し、仕事をするようになりました」（**池田吉隆さん**／株式会社イワサ・アンド・エムズ）

鹿島現場所長からのコメント

鹿島建設株式会社 東京建築支店
勝どき東地区第一種市街地再開発事業施設建築物A1地区新築工事事務所
鷲見 慎一 所長

建設業界全体に関係する課題ではありますが、特に現場の最前線で仕事をされている専門工事会社としての危機感から、自分たちの価値を高めていこうという熱量が伝わってくる改善事例だと感じました。七夕会は毎回２時間の会議を持たれているようですが、毎回これだけの濃密なテーマについて取り組まれている吉岡本部長ならびに皆さんの姿勢は本当に感服するばかりです。

当現場は地上階の工事を3工区に分けて進めており、その最初に着手する工区をイワサ・アンド・エムズの和田職長にお願いしましたが、こうした改善活動を背景に、当現場でもしっかりとした仕事をやっていただき、本当に感謝しております。